

授業科目名	動物感染症学Ⅱ	科目コード	261030		
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学 年	2年
担当教員	長岡 小百合				
	実務経験教員 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) 実務経験内容 獣医師免許 県外にて、小動物臨床獣医師、動物園獣医師として勤務。				
開講時期	前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年 ・ 特別講義 ・ その他		授業コマ数	30時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	1単位	
使 用 テキスト1	書 名	愛玩動物看護師の教科書 第3巻 基礎動物看護学			
	著 者	緑書房編集部 編			
	出版社	株式会社 緑書房			
使 用 テキスト2	書 名	寄生虫ビジュアルガイド			
	著 者	佐伯英治			
	出版社	株式会社 インターズー			
参考図書					
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他 ()				
<p><授業の目的・目標></p> <p>微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防、治療法など感染症対策の基礎を修得する。</p>					
<p><授業の概要・授業方針></p> <p>感染、発症とは何かを理解した後、病原微生物にはどのようなものがあるかを学習する。それぞれの微生物の特徴を理解した上で、感染症の症状や予防に進む。その後、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を習得し、感染症予防の重要性を飼い主に伝えられるようになる。また、感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。</p>					
<p><成績基準・評価基準></p> <p>前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80~100点を優、70~79点を良、60~69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、80%を満たすまでの時間数の課題に取り組んだのちに追試験を受けることができる。追試においては60~100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。</p> <p>通年の評価は、前期と後期の本試験の点数の平均を算出し、その平均点が80~100点を優、70~79点を良、60~69点を可とする。</p>					
<p><使用問題集・注意事項></p>					
<p><授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他></p> <p>公衆衛生学、動物形態機能学</p>					

授業科目名		動物感染症学Ⅱ
回	授 業 内 容	備 考
1	微生物の分類と特徴（細菌、ウイルス）	
2	微生物の分類と特徴（真菌、プリオン、原虫）	
3	免疫の仕組みの振り返り、感染防御	
4	免疫学の基礎と応用（ワクチン）	
5	感染症の成立要因と伝搬様式	
6	消毒法と滅菌法	
7	微生物検査（微生物検査の基本）	
8	代表的な疾患（犬猫のウイルス性疾患）	
9	代表的な疾患（犬猫の細菌性疾患）	
10	代表的な疾患（犬猫の真菌性疾患）	
11	代表的な疾患（犬猫の原虫性疾患）	
12	代表的な疾患（犬猫以外の動物の感染症）	
13	前期まとめ	
14	内部寄生虫（線虫類の特徴）	
15	内部寄生虫（線虫類）	
16	内部寄生虫（線虫類）	
17	内部寄生虫（吸虫類の特徴）	
18	内部寄生虫（吸虫類）	
19	内部寄生虫（条虫類の特徴）	
20	内部寄生虫（条虫類）	
21	内部寄生虫（条虫類）	
22	内部寄生虫（原虫類）	
23	内部寄生虫の検査	
24	外部寄生虫（昆虫類）	
25	外部寄生虫（ダニ類）	
26	疾病と寄生虫	
27	代表的な疾患（寄生虫生疾患）	
28	代表的な疾患（寄生虫生疾患）	
29	代表的な疾患（寄生虫生疾患）	
30	後期まとめ	